



凍結ヒトNK細胞

製品説明

・末梢血単核球から CD3-CD56+陽性細胞が 80%以上になるように培養した後、液体窒素保存しております。

保存

・到着後、速やかに液体窒素へ保存してください。

ヒト組織に関して

- ・使用するドナーは、定期的に HIV、HBV、HCV 等のウイルス検査を実施し、結果が陰性のドナーを用いております。
- ・提供されたヒト組織は、研究目的に使用することに同意したドナーに由来します。
- ・弊社の製品は、研究用として販売しております。ヒト・動物への医療、臨床検査用途には使用しないようご注意ください。

商品名		凍結ヒトNK細胞		
型番		FN105-5	FN105-10	FN100-1
仕様	組成	CD3-CD56+陽性細胞が 80%以上 (凍結保存前)		
	細胞数	> 1x10 ⁷ cells/凍結チューブ		
	包装	凍結チューブ x5 本	凍結チューブ x10 本	凍結チューブ x1 本
	安全性 検査	マイコプラズマ(-)、一般生菌 (-) HIV(-)、HBV(-)、HCV(-)		マイコプラズマ(-)、 一般生菌 (-)
納期		受注生産 (約 1 か月)		受注生産 (約 3 週間)



凍結 NK 細胞 解凍手順

ver.03

【試薬】

RPMI1640 培地 (10%FBS 含有、IL-2 不含)、FBS (ウシ胎児血清、56°C 30 分にて不活化済み)、トリパンプルー溶液 (必要に応じて)、継代培地 (細胞科学研究所、ALyS505N-7、No. 1027P05 推奨)

【資材・機器類】

15mL コニカルチューブ、50mL コニカルチューブ、1.5mL チューブ x2 本、小フラスコ (培養面積 25cm²)、中フラスコ (培養面積 75cm²)、ラプトップクーラー (4°C 設定)、ヒートブロック (37°C 設定)

【手順】

1. クライオチューブ 1 本分につき、1 本の 15mL コニカルチューブに 4°C で保存された RPMI 培地を 9mL 分注する。
2. 凍結細胞を液体窒素から取り出し、ヒートブロックでクライオチューブを加熱して、迅速に凍結細胞液を解凍する。(ヒートブロックがない場合には掌にて温めて解凍する。) 凍結細胞の氷塊が完全に溶けた瞬間にすみやかにクライオチューブを 4°C に設定したラプトップクーラーに移す。
3. クライオチューブに入っている融解した細胞懸濁液を、空の 15mL チューブに静かに移す。
4. RPMI1640 培地が分注されている 15mL コニカルチューブから 1mL とり、細胞懸濁液の入っているコニカルチューブを静かに揺らしながら 1 滴ずつ静かに滴下する。その後、残りの 8mL の RPMI1640 培地を、コニカルチューブを揺らしながら静かに滴下する。
5. 1000rpm、10 分間、室温で遠心する。
6. 継代培地を 10mL 用意する。
7. 遠心分離後のコニカルチューブの上清をデカンテーションで除去し、沈殿成分をタッピングによりほぐす。



凍結 NK 細胞 解凍手順

ver.03

8. 沈殿細胞成分に継代培地 10mL を加え、ピペットで静かに 2~3 回混和する。この際、1.5mL チューブに一部取り、細胞数、生存率をカウントする。
9. 以下の条件になるように、添加する培地量、FBS 量を計算する。
 - ・ 細胞密度： 2.0×10^6 cells/mL
 - ・ FBS 濃度： 10%
10. 必要な小フラスコ、または中フラスコ、継代培地を準備する。
11. フラスコに適量の培地と FBS を添加する。
12. 37°C、5%CO₂ に設定されたインキュベータにフラスコを入れ、培養を開始する。
13. 2~3 日培養して、NK 細胞を使用する。